科目名	建築・環境コンピュータ基礎演習
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	武井奈津美
授業の概要及び テーマ	建築・環境デザインの分野において、Illustrator、Photoshop の使い方に特徴がある。この演習では、設計のプレゼンテーションパネル制作を念頭に、基本操作からアプリケーションの連携まで学び、プレゼン力を身につける。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ Illustrator、Photoshop の基礎操作方法を習得する。 ・ 後期の設計演習のパネルメイキングに、習得した技術を即座に応用する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、Illustrator の基本操作 1 02 Illustrator の基本操作 2 03 Illustrator の基本操作 3 04 Illustrator の基本操作 4 05 Illustrator の基本操作 5 06 Illustrator の基本操作 6 07 Photoshop の基本操作 1 08 Photoshop の基本操作 2 09 Photoshop の基本操作 3 10 Photoshop の基本操作 4 11 Photoshop の基本操作 5 12 Photoshop の基本操作 6 13 Photoshop と Illustrator の連携 1 14 Photoshop と Illustrator の連携 2 15 Photoshop と Illustrator の連携 3
成績評価基準	作図課題＋最終課題によって評価する。 なお、受講態度、欠席回数によっては最終課題の提出を認めないことがある。データ作成含め、不正が確認された場合は、単位を認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時にプリントを配付する。
参考書・参考資料等	授業中に適時指示する。
用具	課題のデータ保存用に、USB メモリ (1 GB 以上推奨) を各自で用意してください。毎回授業の前に各自で USB メモリ内部のウイルスチェックを行って下さい。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	後期の「建築・環境デザイン演習 I」では、設計がどんなに良くても、パネルのレイアウトが成功しない限り、高得点を得ることはできません。学内に展示される先輩達の優秀作品がとても美しいのは、1年生の時から腕を磨いてきたからです。設計図面、文章、模型写真、透視図などを、自在に編集し、見事にレイアウトすることは、造形大生にとって極めて重要なことです。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス 2020

科目名	製図実習
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎森 望、平山育男
授業の概要及び テーマ	木造および RC（鉄筋コンクリート）造の建築物を教材とし、建築・環境デザイン学科の諸分野における基本的な情報伝達手段である製図、透視図、模型制作、プレゼンテーションの技法について系統的に学習する。
達成目標	建築・環境デザイン学科の諸分野における情報伝達の共通言語としての製図方法を理解し、表現することができる。また、建築物がどのような要素から成り立っているのかを理解し、説明できる。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、製図とは？・必要な道具について 02 図法の説明・線と文字・寸法の記入法・表示記号 03 木造の配置図・平面図 04 木造の立面図・断面図 05 木造の平面詳細図（1） 06 木造の平面詳細図（2） 07 木造の断面詳細図（1） 08 木造の断面詳細図（2） 09 展開図 10 透視図（1） 11 透視図（2） 12 模型 13 RC 造の平面図（1） 14 RC 造の平面図（2） 15 最終発表・まとめ
成績評価基準	課題 80%、授業姿勢 20%。 なお、出席率が 2/3 を下回る場合は単位を与えない。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合、遅れた日数により減点する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	プリントを配布する。
参考書・参考資料等	『建築製図』 学芸出版社 『建築設計演習基礎編』 彰国社 『建築製図』 彰国社
用具	最初の授業日に必要な道具の説明する。また、希望者には大学売店にて、一括販売する。
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	製図はデザイナーにとって必要不可欠なイメージ伝達技法であると同時に、知識と経験の積み上げが必要な技術である。毎回、授業の最初に説明をするので、遅刻をしないように。また、課題はほぼ毎週出題されるので、提出期限を守ること。なお、指定された道具と配付された資料は、毎回持参するように。
実務経験を活かし た授業	建築設計事務所に勤務経験のある教員が、図面の描き方を教える。また、情報伝達手段としての透視図法、模型制作、プレゼンテーションの方法などについて指導する。

長岡造形大学 シラバス 2020

科目名	基礎数学
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎津村泰範、福本 壘、北 雄介
授業の概要及び テーマ	建築・環境デザイン学科で学び、研究を進める上で、不可欠な数学的知識を習得する。高校までの学習内容のうち、特に建築設計や各種計画に必要な部分を取り上げ、集中的に理解度の向上を図る。
達成目標	建築・環境デザイン学科として必要な数学的知識を確かなものにするとともに、建築構造に対する理解や各種計画・解析を定量的な視点から捉えられるような下記の基礎的能力を獲得する。 ・長さ、面積の単位と図面の縮尺について正しく理解できる。 ・構造力学Ⅰに使用するレベルの三角関数、ベクトルが理解できる。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 数学的知識の状況確認 02 建物や土地の面積把握 03 建物と土地の関わり (容積率や建ぺい率) 04 縮尺とモジュール 05 チェックテスト1と解説 06 三角関数の理解度確認 07 三角関数の建築・建設の場面での基礎的利用方法1 08 三角関数の建築・建設の場面での基礎的利用方法2 09 チェックテスト2と解説 10 ベクトルの概念 11 ベクトルの大きさと成分 12 ベクトルの合成 13 内積と角度の計算 14 到達度確認(1) およびまとめ 15 到達度確認(2)
成績評価基準	受講態度 30%、到達度確認テスト 70% ただし、必要出席回数が70%未満の場合、到達度確認テストの受験を認めないことがある。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じて資料を配付する。
参考書・参考資料等	今村仁美・大谷一翔『図説 やさしい建築数学』学芸出版社 2,100円
用具	
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	この授業専用のノートを一冊必ず用意すること。
実務経験を活かし た授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(描写) 〈建築・環境デザイン学科〉
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	<p>基礎造形実習Ⅱ(描写)は、主に「パース着彩」と「透明水彩画」の2つのプログラムからなる。これらのプログラムでは絵の具を使用した着彩表現を学ぶ。現在、プレゼンテーションの時に使われる着彩パースはCGが主流であり、手描きによる絵の具を使用したパースは稀なケースとなっている。しかし、絵の具を使用した手描きパースには味わいがあり、人々を惹きつける表現としての価値がある。加えて、自身のアイデアを発展させるプロセスにおいても手描きによる表現は重要である。</p> <p>「パース着彩」では、建物の外観、内観、店舗のファサードを描く。 「透明水彩画」では、キャンパス内の風景の水彩表現描写を課題とする。 適宜、カメラ講習が行われる。</p>
達成目標	<p>透明水彩絵の具による表現制作を通じて、「空間の表現」、「色彩を用いた様々な表現」を追求し、基礎的な素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい構図を得ることができる。 描写画材の応用と適切な使用ができる。 個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。 それぞれの材質の特徴を理解し、的確な表現をすることができる。 多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	<p>01 ガイダンス 02・03 建物の外観パース 04・05 建物の内観パース、カメラ講習 06～10 商業施設のファサード 11～15 風景の水彩表現 * 日程は軽微な調整があるので注意して下さい。</p>
成績評価基準	<p>建物の外観・内観 33%、商業施設のファサード 33%、風景の水彩表現 33%。 受講姿勢によるもの 50%、提出作品 50%により総合的に評価します。欠席遅刻は減点の対象になります。</p>
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	適宜各授業にて配付する。
参考書・参考資料等	別途提示する。
用具	授業前に適宜指示する。指示、指定された用具は必ず授業当日までに用意し、持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<p>基礎造形の力は今後の制作・研究を行う上で必要であり、身に付けるべき大切な要素の一つです。発想力が重要であることと同様に、基礎的な表現力がなければ具体的な結果や質の高い成果につながりません。経験の有無に関わらず、各人のレベルが向上することを目的としてしっかりと取り組んで下さい。</p>
実務経験を活かした授業	実務経験のある教員が実技指導を行う。

科目名	基礎造形実習Ⅱ(造形) 〈建築・環境デザイン学科〉
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	基礎造形実習Ⅱ(造形)は、「CG」、「各種図面作成」、「建築士試験製図」の3つのプログラムで構成される。 「CG」では3D描画ソフトのスケッチアップを学ぶ。 「各種図面作成」では前期の製図実習でカバーできなかった伏図などのトレースを行う。 「建築士試験製図」では建築士受験のために必要な手描き図面のトレーニングを行う。
達成目標	スケッチアップを使用し、CGパースを制作することができる。 各種伏図の意味を理解し、製図することができる。 建築士受験のために必要な図面を製図することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01~05 スケッチアップ 06~10 各種図面作成 11~15 建築士試験製図 * 日程は軽微な調整があるので注意して下さい。
成績評価基準	「CG」33%、「各種図面作成」33%、「建築士試験製図」33%。 受講姿勢によるもの50%、提出作品50%により総合的に評価します。欠席遅刻は減点の対象になります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	それぞれの授業内で配付することがある。
参考書・参考資料等	別途指示する。
用具	授業にて適宜指示する。授業日には必ず指示された用具を持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形の力は今後の制作・研究を行う上で必要であり、身に付けるべき大切な要素の一つです。発想力が重要であることと同様に、基礎的な表現力がなければ具体的な結果や質の高い成果につながりません。経験の有無に関わらず、各人のレベルが向上することを目的としてしっかりと取り組んで下さい。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(素形材) 〈建築・環境デザイン学科〉
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	基礎造形実習Ⅱ(素形材)は、「模型製作」と「椅子制作」の2つのプログラムからなる。 「模型製作」では、建築・環境デザイン演習Ⅰの4つの課題の模型を製作する。 「椅子制作」では、「椅子デザイン」で考案した椅子の模型を制作する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。 ・ 課題に関する説明を記録し、制作過程をまとめることができる。 ・ 制作等の指導を理解することができ、適切な質疑応答ができる。 ・ 制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる完成度の高い成果物を提出することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	<p>詳しくは初回のガイダンス時に説明を行う。</p> <p>01～05 模型製作 06～10 椅子制作 11～15 模型製作</p> <p>* 日程には軽微な調整があるので注意して下さい。</p>
成績評価基準	模型製作 67%、椅子制作 33%。 受講姿勢によるもの 50%、提出作品 50%により総合的に評価します。欠席遅刻は減点の対象になります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	各課題により資料テキストを授業時に配付する場合がある。
参考書・参考資料等	別途指示する。
用具	各課題制作に必要な用具・材料は適宜指示する。各自が使用する材料等は各自で購入する場合もある。(各課題により異なる。)
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形の力は今後の制作・研究を行う上で必要であり、身に付けるべき大切な要素の一つです。発想力が重要であることと同様に、基礎的な表現力がなければ具体的な結果や質の高い成果につながりません。経験の有無に関わらず、各人のレベルが向上することを目的としてしっかりと取り組んでください。
実務経験を活かし た授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(デザイン) 〈建築・環境デザイン学科〉
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)は、「建築写真」と「椅子デザイン」の2つのプログラムからなる。「建築写真」では、実際の建築物の写真の撮影法を学び、実際に撮影する。「椅子デザイン」では、椅子のアイデア、デザインを考案し、設計を行い、三面図、姿図を作成する。
達成目標	建築物撮影のノウハウがわかり、実際に撮影することができる。 椅子の設計制作における基礎的な事項を理解し、デザインの検討と展開を行い、三面図、姿図に表現することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	最初のガイダンス の際に詳細を説明する。 01～04 建築写真 05～15 椅子デザイン * 日程は軽微な調整があるので注意して下さい。
成績評価基準	「建築写真」27%、「椅子デザイン」73%。 受講姿勢によるもの50%、提出作品50%により総合的に評価します。欠席遅刻は減点の対象になります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	各授業内でプリントなど配付する。
参考書・参考資料等	別途指示する。
用具	授業にて適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形の力は今後の制作・研究を行う上で必要であり、身に付けるべき大切な要素の一つです。発想力が重要であることと同様に、基礎的な表現力がなければ具体的な結果や質の高い成果につながりません。経験の有無に関わらず、各人のレベルが向上することを目的としてしっかりと取り組んで下さい。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築・環境CAD実習
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	武井奈津美
授業の概要及びテーマ	建築・土木・機械等の図面は設計者の意思や表現を伝える言葉である。図面は電子データとしてCADで作図され、効率的に運用されることが一般的となっている。 この実習では、国内外でシェアの高いAutoCADを用いて、基本的な作図手法を修得し、図面表現の力をつける。前半は基本操作を修得する。中盤からは、設計演習課題の図面を作図することで図面の読み方を理解し、効率的な作図を身につける。後半は、その他のアプリケーションと連携を行いながら、設計図書について学ぶ。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> AutoCADの基本操作を取得し、図面を正確に描くことができる。 同時並行の設計演習課題の図面を、美しく描くことができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	<p>01 ガイダンス、AutoCADの基本操作1(座標、縮尺、レイヤー、0スナップ) ・作図練習1</p> <p>02 AutoCADの基本操作2(作図コマンド、基点設定) ・作図練習2</p> <p>03 AutoCADの基本操作3(編集コマンド) ・作図練習3</p> <p>04 AutoCADの基本操作4(寸法、文字の設定、印刷設定) ・設計演習課題作図1(ふたり部屋:RC造平面図)</p> <p>05 AutoCADの基本操作5(DXFファイル:Illustratorとの連携) ・設計演習課題作図2(ふたり部屋:RC造平面図、展開図)</p> <p>06 AutoCADの基本操作6(ペーパー空間) ・設計演習課題作図3(蔵座敷:木造平面図)</p> <p>07 AutoCADの基本操作7 ・設計演習課題作図4(蔵座敷:木造平面図、断面図、展開図)</p> <p>08 AutoCADの基本操作8 (写真データの取込み、DXFファイル:その他のCADとの連携)</p> <p>09 AutoCADの基本操作9 (Excelとの連携:面積表、仕上表など)</p> <p>10 AutoCADの応用操作1 ・設計演習課題作図5(フォリー:配置図)</p> <p>11 AutoCADの応用操作2 ・設計演習課題作図6(フォリー:平面図、立面図、断面図)</p> <p>12 AutoCADの応用操作3 ・設計演習課題作図7(フォリー:平面図、立面図、断面図)</p> <p>13 AutoCADの応用操作4 ・設計演習課題作図8(住宅:平面図、立面図、断面図)</p> <p>14 AutoCADの応用操作5 ・設計演習課題作図9(住宅:平面図、立面図、断面図)</p> <p>15 AutoCADの応用操作6 ・最終課題</p>
成績評価基準	作図課題+最終課題によって評価する。 受講態度、欠席回数によっては、最終課題の提出を認めないことがある。データ作成も含め、不正が確認された場合は、単位を認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドに記載のとおり
テキスト(教科書)	毎回資料を配付します。
参考書・参考資料等	授業中に、適時指示する。
用具	課題のデータ保存用にUSBメモリ(1GB以上推奨)を各自で用意してください。毎回授業の前に各自でUSBメモリ内部のウイルスチェックを行って下さい。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	設計稼業は、CADができなければお話になりません。設計は、1に図面、2に図面、3、4も図面で、5も図面です。図面は、設計者の「意図」を相手に伝える極めて重要な手段です。建築・環境デザイン学科に入学したからには、「図面力」を徹底的に鍛えられるものと覚悟し、精進してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築・環境デザイン演習 I
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山下秀之、小川総一郎、川口とし子、佐藤淳哉、白鳥洋子、津村泰範
授業の概要及びテーマ	初めての設計演習である。インテリアデザイン→日本伝統様式→小建築とランドスケープ→戸建て住宅の設計を学ぶ。製図やCAD 演習で習得した技術も、この演習で応用する。 ■ 第1 課題：「ふたり部屋」 ／建築・環境デザインを学ぶあなたと友人のふたりが、共同生活するインテリアのデザイン。5.4m 立方体の空間認識。プライベートスペース（個別空間）とパブリックスペース（共有空間）を学ぶ。 ■ 第2 課題：「蔵座敷」 ／日本伝統の空間様式を題材にし、そのルールの中で現代に通じる和座敷を設計する。実在する蔵のインテリア・リフォーム。「床・棚・書院」という座敷飾りの扱いを学ぶ。スケルトン・インフィルの習得。 ■ 第3 課題：「フォリー」 ／大学の敷地で自分の好きなポイントに、東屋的な小規模建築物をデザイン。広々とした環境と小さな構造物の関係を学ぶ。 ■ 第4 課題：「住宅」 ／具体的な敷地に、具体的な家族像のための住宅を設計する。住宅の間取りと内部空間と外側の形を一つにまとめる。住宅設計が建築設計の基本中の基本であることを学ぶ。
達成目標	各課題ごとに、以下の完成度合で評価を行う。 1. 毎週の宿題やエスキスを、やり遂げることができる。 2. 課題条件を十分に理解した設計や、優れたデザインができる。 3. 正しく、緻密に、設計図が描ける。 4. 印象的なパースや丁寧な模型を作成することができる。 5. 設計概要を適切な文章で表現できる。 6. 以上を、美しいレイアウトでパネルに表現できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	各演習の初日には、ミニレクチャー形式で課題内容に関連することを学ぶ。中間日のエスキスチェックでは、スケッチブックに描いた素案や模型をもとに、教員のアドバイスを得る。最終日には提出物の採点があり、その場で優秀者の発表と講評会を行う。 前半 〈第1 課題「ふたり部屋」／第2 課題「蔵座敷」〉 01 オリエンテーション&教員の紹介、第1 課題および第2 課題の出題&ミニレク 02・03 第1 課題、第2 課題の宿題チェック、エスキス 04 第1 課題の仮提出（図面）、エスキス（最終チェック） 05 第1 課題の本提出&採点、講評会 06 第2 課題の仮提出（図面）、エスキス（最終チェック） 07 第2 課題の本提出&採点、第3 課題「フォリー」の出題、講評会 後半 〈第3 課題「フォリー」／第4 課題「住宅」〉 08 第3 課題のミニレク、宿題チェック（敷地写真と素案） 09 第3 課題宿題チェック（エスキス模型）、第4 課題の出題、ミニレク 10 第3 課題と第4 課題の宿題チェック、エスキス（平面・断面の検討） 11 第3 課題の仮提出、エスキス（デザイン・構造の検討） 12 第3 課題の本提出&採点、「フォリー」の講評会 13 第4 課題の図面とスタディ模型で中間発表（全員） 14 第4 課題仮提出、図面の最終チェック 15 第4 課題本提出&採点&講評会
成績評価基準	講評会での提出物の成績点数（全教員の採点平均）80%＋宿題提出20%（エスキスを受けると加算される） 未提出作品は、期末の後出し提出日に、提出条件を満たしていれば、60 点として採点される。一作品でも未提出のままの場合は、履修は不合格となる。 作品提出では、提出に遅れた時間に応じた減点がなされる。
出席・遅刻の基準	欠席日数により減点あり
テキスト(教科書)	課題文に資料を配付し説明する場合がある以外、履修者各自により参考図書などを採し、自習すること。
参考書・参考資料等	自分で探すこと。
用具	スケッチブックあるいはエスキス帳、各種筆記用具
履修制限等	特になし
履修希望者への要望・事前準備	各人が設計者として、アイデアや考えを人前で堂々と主張し、図面やパースや模型を作成し、プレゼンしていけるようになること。
実務経験を活かした授業	豊富な実務実績による教員の演習指導である。

科目名	建築構法
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	平山育男
授業の概要及びテーマ	建築をどのように組み立てるのかは建築を考える場合、必須の事柄と言えます。軸組構法、組積造などの各種構法の種類と特徴を踏まえた上で、木造構造を中心に基礎、軸組、小屋組、床、壁、天井、建具などの構成方法について基礎的な事項を中心に広く学習をしていきます。特に、各構法については技術の歴史的な背景と成立の要因を有機的に探求して、現在ある構法の成立背景を併せて示して行きます。
達成目標	木造の構法を中心に設計に活用する知識を得ることを目指し、各構法を羅列的な知識として学習するのではなく、歴史的な発展として把握することにより、今後における建築構法の在り方も探る姿勢を身につけることができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	<p>01 各種建築構法の種類と特徴：軸組構法、組積造 各種構法について材料の特性、構造の違いについて概括的に学びます。</p> <p>02 基礎：掘立、礎石立、布基礎 (02～11回の授業では各部位材の名称を説明するとともに、その成り立ちと変遷を学習します。)</p> <p>03 軸組：土台、柱、梁、桁、胴差</p> <p>04 軒：垂木</p> <p>05 架構：折置組、京呂組</p> <p>06 屋根 形状と名称：切妻造、寄棟造、入母屋造</p> <p>07 屋根 材料：瓦葺、金属板葺ほか</p> <p>08 床：大引、根太、床材</p> <p>09 天井：廻縁、棹縁、各種の天井</p> <p>10 壁：真壁、大壁、各種の壁</p> <p>11 開口部：窓、扉</p> <p>12 木造の架構と構法：基礎伏、床伏 (12～14回では各種の施工図についての解説を通して、実際の架構法を学びます。)</p> <p>13 木造の架構と構法：小屋伏、軸組</p> <p>14 木造の架構と構法：矩計</p> <p>15 まとめ</p>
成績評価基準	授業への参加態度 20%、授業毎の小課題 30%、複数回行う確認テスト 50%。 なお、小課題は毎授業の終わりに実施し、次回の授業で返却をします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	日本建築学会編『構造用教材』
参考書・参考資料等	彰国社編集 『改訂 伝統のディテール』 近藤豊 『古建築の細部意匠』 大河出版
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築物を見て、知るためには部材名称を覚えることが最小限必須となります。授業においては名称の記憶や学習に留まらず、その成立・変遷をも把握し、建築が歩んできた歴史の道のりを体験してもらいたいと考えています。そのためには建築に向かうとき、主体的に建築を知る－かたちの意味を考える－努力を希求します。
実務経験を活かしした授業	文化財建造物修理設計監理の経験を持つ教員が指導する。

科目名	建築・環境デザイン演習Ⅱ
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎渡辺誠介、小川総一郎、北 雄介、白鳥洋子、福本 壘、柏原信幸、高坂裕子
授業の概要及びテーマ	公園・緑地ならびに都市計画・まちづくりなどの環境計画において、土地の持つ様々な資源を把握しつつ、保存・活用・開発の手法について計画・設計による演習を行います。演習にあたっては、長岡市内の具体的事例をケーススタディーとして設定します。
達成目標	環境保全、あるいは新たな環境創造のための実践的手法を習得し、実際の計画や設計に応用できるようになることを目標とします。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	<p>01 全体説明 <ランドスケープ課題>小川、柏原</p> <p>02 対象地域の周辺状況および敷地現状の把握と分析</p> <p>03 対象地域のボリューム把握、視点場や歴史分析</p> <p>04 デザインコンセプト構築</p> <p>05 空間デザイン及びエスキース作成</p> <p>06 シークエンシャルスケッチ及び図面作成プレゼンテーションパネル及び模型作成</p> <p>07 講評会</p> <p>08 対象地域の現地踏査</p> <p>09 対象地域の現況および課題の把握</p> <p>10 踏査結果に関する取りまとめ(プレゼンテーション)</p> <p>11 空間改善のためのアイデア・コンセプト立案</p> <p>12 空間デザイン及びエスキース作成</p> <p>13 シークエンシャルスケッチ及び図面作成プレゼンテーションパネル及び模型作成</p> <p>14 講評会</p> <p>15 ランドスケープ+都市の全体講評会</p> <p><都市計画課題>清水、渡辺、白鳥、福本、専任教員</p> <p>* 作業、ミニレクチャーなどは各回9:00にNaDeC BASEで行います(第1回のみ大学集合)。直接NaDeC BASEに行くもの以外はNIDバスで大学から移動する都合上8:40に学生駐車場に集合してください。</p> <p>01 課題説明、都市計画からの解説</p> <p>02 グループ作り、調査項目検討、ベースマップ作成</p> <p>03 現地踏査</p> <p>04 グループワークの成果発表</p> <p>05 個別計画案のエスキース</p> <p>06 計画案の作成</p> <p>07 計画案発表</p> <p>08 課題説明、都市計画からの解説</p> <p>09 グループ作り、調査項目検討、ベースマップ作成</p> <p>10 現地踏査</p> <p>11 グループワークの成果発表</p> <p>12 個別計画案のエスキース</p> <p>13 計画案の作成</p> <p>14 計画案発表</p> <p>15 ランドスケープ+都市の全体講評会</p>
成績評価基準	中間発表30%、作品(場所性の把握、分析・評価、コンセプト、デザイン、説得力)50%、出席した上での教員への質問・討議20%で評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集成』丸善 5,040円 DAVIS・WALKER『PLAN GRAPHICS』WILEY 5,776円 日本建築学会編『まちづくりデザインのプロセス』日本建築学会 1,995円 園田聡『プレイスメイキング アクティビティ・ファーストの都市デザイン』学芸出版社 2,400円 小川総一郎『エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法』理工図書 4,100円
用具	現地踏査時にカメラと記録用具を携帯してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	身近に接する場所の良い点、悪い点を的確に把握し、その場所が何を求めているのかを読み取る能力を開発します。課外授業を取り入れるため、スケジュールは比較的きびしい授業になります。実際の長岡の敷地をケースとして取り上げ、基本計画をプロセスを重視して作成していきます。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築材料実験
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	北 雄介、◎佐藤淳哉、白井一義
授業の概要及びテーマ	<p>建築をかたちづくる材料には骨組みを構成する構造材料、断熱・防音・耐火などの機能を求められる機能材料、内外装を仕上げる仕上げ材料があります。この授業では地震や台風など建物を破壊しようとする力に対して安全を守るために最も重要な構造材料に対する知識を実験を通して具体的に体得して行きます。実験の対象とするのはコンクリート、および複合材料としての鉄筋コンクリートです。その他、主要な構造材料である木材と鋼材については実験デモンストレーションからその材料特性を学び、実際の材料の使われ方を理解するために、木加工工場、鉄骨製作工場、生コンクリートプラント等の見学を予定しています。</p> <p>また、材料の特性の体感のためにヒノキ角棒と綿糸を使用した橋梁課題に取り組んでもらいます。それぞれの材料の簡易強度計測からどうすれば強い橋梁が構成できるかを考察し、実際に組み立てて実験することで材料構成を体験的に学びます。</p>
達成目標	<p>構造的安全性を理解する上で骨組みの形、力の流れとともに骨組みを構成する材料の力学的性質を知ることが必要である。構造材料として用いられている材料の基本的な力学的挙動を体験的に理解することにより、工学的に評価する方法を身につけることを目標とします。</p>
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	<p>01 ガイダンス 02 木造講義 03 木材の圧縮・せん断試験デモ 04 コンクリート講義 05～11 コンクリート試験体の制作と圧縮・曲げ試験 鉄骨講義および引張試験デモ 12～14 ヒノキ角棒およびみずいと綿糸による橋梁課題 角棒と綿糸の簡易耐力実験、橋梁耐力コンテスト 15 実験まとめ、小テスト</p> <p>実験グループ毎に木加工工場、鉄骨製作工場、生コンクリートプラント等の見学を行う</p>
成績評価基準	<p>実習・実験を通じて建築材料の性質を学ぶという授業の性格から出席率が80%を下回る場合には単位を与えません。授業のはじめにその日の実験の説明をしますので遅刻をすると目的や手順がわからなくなってしまいます。遅刻は厳禁です。もしも遅刻をしたら3回で欠席1回とみなします。成績評価は、積極性(20%)と実験結果のレポート(50%)および課題(30%)で行います。</p>
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	プリントを配付。
参考書・参考資料等	『建築材料実験用教材』 日本建築学会 1,900円 『建築材料用教材』 日本建築学会 1,900円
用具	用具は基本的に大学の備品を使いますが、計算を行うので、電卓が必須です。また作業しやすく、汚れてもよい服装で臨んでください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<p>建築の設計においても施工においても使う材料の性質を知らなくてはお話になりません。しかし、力学的性質は目に見えないことが多いため、理解が困難な一面もあります。この授業では材料の破壊に至るまでのプロセスを観察することで力学的な性質を体で覚えることを意図しています。積極的に体と手を動かして実験に参加して下さい。また、実験の結果を整理し、考察するには工学的な手法を知る必要があります。予測、観察、考察、まとめの一連の方法を知ることが大切です。</p>
実務経験を活かした授業	コンクリート診断、建築設計の実務に携わる教員が指導することで、建築の工学的基礎と設計の関係性も視野に入れた実験・講義を行う

科目名	建築環境工学
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	飯野秋成
授業の概要及びテーマ	現代の建築設計にたずさわる者には、建築とまちのサステナブル性を追求する真摯な姿勢が求められる。この講義では、建築物の省エネルギーと快適性を具現化する切り口として、日照と日射、熱と結露、換気と通風、採光と照明、色彩計画、騒音と音響、および都市と地球環境のそれぞれについて、基本的な考え方を学ぶ。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日照と日射、熱と結露、換気と通風、採光と照明、色彩計画、騒音と音響、および都市と地球環境について、その基本を説明できる。 ・ 環境設計の考え方を、自身の手がける建築物の計画に応用できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス；建築環境工学はなぜ必要か 02 日照と日射（1） 03 日照と日射（2） 04 採光と照明（1） 05 採光と照明（2） 06 色彩（1） 07 試験A/色彩（2） 08 熱と結露（1） 09 熱と結露（2） 10 通風と換気（1） 11 通風と換気（2） 12 試験B/騒音と音響（1） 13 騒音と音響（2） 14 都市と地球環境（1） 15 試験C/都市と地球環境（2）
成績評価基準	授業中に実施する3回の試験A, B, C（配点は20+30+50）の合計で評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	図とキーワードで学ぶ建築環境工学 学芸出版社 2800円
参考書・参考資料等	
用具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定テキスト ・ 筆記用具 ※ 定規、および加減乗除用の電卓を用いることがあります。必要なときに指示します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業中に多くの演習を実施していきます。当授業の試験A-Cに向けて、そして将来の建築士試験などの受験を見据えて、毎回の演習内容を確実に身につけていってください。
実務経験を活かしした授業	

科目名	建築計画 I
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎北 雄介、佐藤淳哉
授業の概要及びテーマ	建築は美しく、快適で、使いやすいものになるように、また社会や地域のコンテキストなども踏まえて計画しなければならない。このような多様な側面を持つ建築のデザインのために、まずは人間（認知や行動など）と空間（スケール、建築や都市の空間構成）、およびこれらの間にある関係について正しく理解しなければならない。この授業では基本的な言葉、理論、図式などを幅広く解説することで、人間と空間との関係を理解し、基本的な計画技術や考え方を身につけてもらう。魅力的な設計事例や書籍なども多数紹介するので、今後の設計活動に活かしていただきたい。
達成目標	1) 建築計画を理解するための基礎知識（用語、理論、思想、事例など）を身につける 2) 書籍や調査などにより、建築を主体的に学ぶ習慣をつくる
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 イントロダクション：建築計画の位置づけ 02 スケール①：寸法、単位、比 03 スケール②：家具・什器、建具から建築・都市まで 04 スケール③：階段の実測 05 課題1「階段のスケッチ」のプレゼンテーション 06 人の認知①：ミクروسケール（身の回りの空間の認知） 07 人の認知②：マクروسケール（都市空間の認知） 08 人の行動①：ミクروسケール（行動の基本原理） 09 人の行動②：マクロスケール（生活行動） 10 空間構成①：建築家の語る言葉 11 空間構成②：機能と空間 12 空間構成③：内と外、境界と領域、中心と方向 13 空間構成④：プライバシー、アクセシビリティ 14 空間構成⑤：ダイアグラム 15 課題2「空間の解読」のプレゼンテーション
成績評価基準	出席回数12回以上を前提とし、課題2回の評価（40%+40%）、受講に対する積極性（20%）を総合して評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドに記載のとおり
テキスト(教科書)	都度、授業に関係する推薦図書を紹介する。
参考書・参考資料等	
用具	都度、授業中に指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業時にはレジュメを配付しますが、概要の記述に留めるため、しっかりとメモを取るようになしてください。また課題は提出して終わりではなく、講義室に掲示し、優秀作品についてはプレゼンテーションを行なっていただきます。議論の題材になるような、野心的な内容を期待しています。
実務経験を活かした授業	さまざまなビルディングタイプ、およびさまざまな設計フェーズ実務に携わった経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	建築・環境デザイン演習Ⅲ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	北 雄介、◎佐藤淳哉、津村泰範、飯野由香利、東海林健、田中理恵子、渡邊詞男
授業の概要及びテーマ	<p>建築及び建築を含めた風土と環境、敷地との係り合いを学ぶ。建築の持つ空間、量感、そしてこれによって表現される効果を演習する。それぞれの土地に根ざした建築の設計を試みると同時に、少し複合的な機能を持った建築にチャレンジする。テーマは以下のとおり。</p> <p>① 単純な機能の中にも、都市に新たな提案を含み、空間全体を引き締めることができる建築を考え、表現とそれを包み込む環境の質の向上を計る。</p> <p>② 集合住宅等の設計：地域環境を十分理解した上で、そこに集合して住まうことの意味と街を構成する重要な要素であることを認識し、設計を進める。</p> <p>③ 美術館等の設計：展示するものに対する企画力と建築形態への発想の自由さを獲得し、機能を持たせた建築空間にまとめ上げる力をつける。</p>
達成目標	<p>現実に行われている建築設計の流れを習得する。そのためには、建築構造と建築環境工学の基礎知識を応用する能力が必要である。さらに、敷地の条件を読みこなす能力も問われ、最終的に建築造形として全ての要素を含み込んだ提案ができることが求められる。</p>
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	<p>第1 課題「集合住宅+」</p> <p>01 出題およびリサーチ解説</p> <p>02 グループリサーチワーク</p> <p>03 リサーチ・プレゼン</p> <p>04~07 エスキス</p> <p>08 提出・講評</p> <p>第2 課題「現代美術館」</p> <p>09 見学</p> <p>10 リサーチ・プレゼン</p> <p>11~14 エスキス</p> <p>15 提出・講評</p> <p>*09 項に見学実習を行う</p> <p>令和元年度：金沢 21 世紀美術館、鈴木大拙館</p>
成績評価基準	課題ごとの担当教員の評価を平均する。毎回のエスキスチェック重要。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	リサーチのなかでテキストとなる資料を自ら見つけること
参考書・参考資料等	<p>「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編</p> <p>「建築設計資料集成」日本建築学会編</p> <p>建築図集 低層集合住宅Ⅰ、Ⅱ 日本建築家協会編 彰国社刊</p> <p>各種建築雑誌</p>
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<p>エスキスを重要視する。毎回学生はエスキスをしながら考えたことを教員に対してプレゼンテーションすることにより、自らの考えを修正したり、深めたりしてほしい。スケジュール管理を徹底し、各段階でのエスキス時間を十分確保すること。各自の設計案は設計者による主旨説明の後、各教員によって講評されるが各自自信をもって立ち向かってほしい。建築・環境デザイン学科に入学し、2年目。専門課程に入る前の最後の演習となる。敷地における空地のデザインと建築設計は建築・環境デザイン学科におけるものづくりの基本であるという認識に立ち、建築及びその環境を学び、専門家としての考え方、知識を身につける上で大切な演習である。また設計することの喜び、楽しみも十分に満喫してほしい。CAD は設計に携わるのであれば必須のスキルですので積極的な授業を各自展開してほしい。</p>
実務経験を活かした授業	設計実務者である複数の教員がリサーチからコンセプトワーク、設計の具体的な内容を指導する。

科目名	構造力学 I
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	中村孝也
授業の概要及びテーマ	物を床に載せた時、また、地震力や風圧力等の外力により建物には力が作用します。建物に生じる様々な応力や変位を知ること、建物の自由な空間や人命に対する安全性、そして、近年、重要視される様になった居住性を考える第一歩となります。 構造力学 I では、外力の種類、そして柱や梁に生じる力の種類を知り、その応力により各部材がどのように変形するかを知ることから始めます。変形が理解できたら、応力や変位を数値として算出するために必要な基本的な事項について説明して行きます。 最終的には、知識として身につけた計算が実際にどのように構造体へ応用されるのか実感できる様に具体例を解説します。
達成目標	建築士に必要な力学的知識である構造物の支点反力や変位および部材断面に生じる応力の種類を理解することを第一目標とし、静定構造を中心に構造力学の計算方法を習得すると共に不静定構造物の計算を試みる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業。
授業計画	01 概要：授業の概要 02 荷重：地震力等建物に加わる外力の種類 03 力の合成と分解：力の合成及び力の分解方法 04 ピン・固定：梁や柱の端部の条件（境界条件） 05 応力と変形：応力の種類と変形 06 支点反力：外力からの支点反力計算 07 断面性能：応力・変位計算において必要な断面性能 08 応力図：応力図の書方・見方 09 梁の応力・変位計算：外力による応力・変位の算出方法 10 見学会：工事現場見学または建物見学 11 トラスの計算：トラスの計算方法 12 応力計算方法：たわみ角法、D値法 13 応力度と許容応力度：断面性能と応力度、許容応力度 14 演習：応力計算の演習 15 まとめ
成績評価基準	成績評価は、期末試験（75%）と積極性（25%）を総合的に行う。 期末試験は出席が 2/3 以上の者に受験資格を与える。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	適宜指示する。
参考書・参考資料等	『建築骨組の力学 基礎編』田中 尚・高梨晃一・宇田川邦明共著、東洋書店 『最高に楽しい建築構造入門』江尻憲泰著、エックスナレッジ 『建築構造力学 1』和泉正哲、培風館
用具	電卓
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築の構造は計算だけで理解できるものではありませんが、応力を理解することは創造的な建築設計の基礎になります。興味を持てるようになるには、基本的な知識が必要です。知識取得のためには、時間をかけて努力する必要があります。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築材料
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	津村泰範、◎平山育男、森 望
授業の概要及びテーマ	建築を造るためには必ず材料が必要です。そして建築に用いられる材料の数は極めて多く、性質もそれぞれ異なります。構造物の建設にはこれらの材料を大量に使用するので、構造物と住環境における安全性や耐久性に対して材料が及ぼす影響も大きく、材料の性質や長所・短所を知ることが極めて重要です。また、仕上材の性質を知り、よりよい空間の構成を知ることが重要です。授業では構造材としての木材、鋼材、コンクリートについての特性と、仕上用材の学習を通し、今後の学習の基礎とします。
達成目標	建築の構造材料として代表的な木材、鉄筋コンクリート、鋼材の性質と強度について理解し、建築物の設計に際しての基本事項として把握することができる。 また、仕上げ材の種類と用途を学ぶことによって、建築表現の在り方を把握することができる。 これらを合わせて実際の設計などにおいて、適切な材料の使用及び選択を行うための力を養うとともに、建築表現を行うことができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	<p>〈津村〉</p> <p>01 建築材料の基礎 02 木材の特徴と日本建築 03 木材の種類と用途 04 木材の加工と性質 05 合板、集成材、輸入材</p> <p>〈平山〉</p> <p>06 鋼材の性質と強度 07 鋼材の物性と製品 08 セメント・コンクリートの性質と強度 09 コンクリートの調合と打ち込み</p> <p>〈森〉</p> <p>10 石材・セラミックス 11 金属・プラスチック・防水材料 12 ガラス・屋根材料 13 壁下地・左官 14 内外装材・塗料・接着剤</p> <p>〈共通〉</p> <p>15 まとめ</p>
成績評価基準	成績はテスト(80%)、授業の受講態度・意欲(20%)により評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	絵とき建築材料 改訂2版 オーム社 2,940円
参考書・参考資料等	『建築材料用教材』 日本建築学会 1,995円 このほかに参考となる資料などを授業において資料として配付します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築の材料を知ることが、よりよい建築を造るための第1歩となります。材料の種類、性質、特性をよく理解して、今後の設計活動などにおける礎としてください。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	建築構造
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	涌井 将貴
授業の概要及びテーマ	日本の建築は、木造、鉄筋コンクリート造、および鉄骨造が基本の3つですが、各材料の性質を利用し、架構の組み方を工夫することにより様々な建築が日々創造されています。本授業では、いろいろな構造形式・構造種別があるので、それぞれの特徴を解説します。 また、材料は、温度や湿度の変化で伸びたり縮んだり、水の影響で腐敗したり、火事で燃えたり、ゆがんだりします。材料の性質を熟知し設計に活かすことも重要なことであり、構造に関する講義をしつつも、様々な材料の特徴や性質についても触れていきます。
達成目標	構造種別、構造形式、材料の強度やその性質に関する知識を習得すること及び基本的な構造設計法を理解する。また、過去の災害による建築構造の歴史を学び、建築構造に必要とされる知識を理解する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 概要：授業の概要 02 構造種別：鉄骨造・鉄筋コンクリート造・木造 03 構造形式：ラーメン構造・ブレース構造・壁式構造 04 荷重・外力：荷重・外力の種類と性質 05 鉄骨造：鉄鋼の性質と鉄骨造 06 鉄筋コンクリート造：コンクリートの性質と鉄筋コンクリート造 07 木造：木の性質と木造 08 様々な構造：膜・トラス・シェル・組積造など 09 地震による建物の揺れ：地震の性質、固有周期と減衰、応答スペクトル 10 建築構造の歴史：耐震設計法の歩みと災害による建物被害 11 耐震診断・耐震補強：耐震診断・補強方法、応急危険度判定の役割 12 地震に対する技術：免震構造・制震構造 13 構造設計：設計プロセスなど 14 最近の研究事例：建築構造に関する研究の紹介 15 まとめ
成績評価基準	試験（75%）とレポート（25%）を総合して評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	必要に応じて資料を配付します。
参考書・参考資料等	『構造物の技術史』藤本盛久編 市ヶ谷出版社 『YOUR PRIVATE SKY』R. BUCKMINSTER FULLER LARSMULLER PUBLISHERS 『最高に楽しい建築構造入門』江尻憲泰著、エックスナレッジ
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築設計は、構造に関する様々な知識が必要となります。構造計算以外の構造に関する知識を取得するため、実際に様々な建築物を見て構造形式や構成材料について考えてみてください。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	測量学実習
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎渡辺誠介、平山育男、福本 晃、可兒雅幸、渡邊信治
授業の概要及びテーマ	建築家、ランドスケープデザイナー、都市計画家、文化財建造物保存専門家、遺跡整備専門家、土木技術士などに必要不可欠な技術である「測量学」を講義・実習を通して身につける。特に平板、測距、レベル測量、角測量の技術を実践的に身につけ、スケール感を養う。
達成目標	測量士補レベルの能力を身につける。 (1) 地形情報処理技術の全般的理解ができる (2) 測量器具が使える
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス+距離測量講義 02 距離測量実習 03 平板講義(放射法、前進法) 04 平板測量実習 05 平板測量実習 06 レベル測量講義 07 レベル測量実習 08 レベル測量実習 09 角測量講義 10 角測量実習 11 角測量実習 12 角測量実習 13 土量計算 14 GIS 測量 15 最終内業確認
成績評価基準	実習での器具取り扱い習熟を重要視する。講義でのレポートも同様。これらをベースに最終内業の結果が60点以上を合格とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	『図解土木講座 測量学』 小田部和司著 技報堂出版 3,200円
参考書・参考資料等	
用具	三角関数付きの電卓は必須です。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	野外での実習があるため、作業しやすい服装を準備すること。 野外で実習の際は、樹木の名前を覚える努力をすること。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築・環境CG実習 I
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎高木秀太、佐藤圭真
授業の概要及びテーマ	この授業では建築・環境デザイン学科におけるCG教育の初級編で、CGソフトウェアを用いた空間のモデリング、レンダリング（描画）の基礎から応用までを演習形式で学習します。 Rhinoceros、Grasshopper による 1. 建築モデルの3Dモデリング、パラメトリック制御、図面出力（題材：パルセロナパビリオン） 2. 都市の解析手法、ビジュアライズをそれぞれ習得し、建築設計（課題）にデジタルな手法を取り入れる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3Dモデル Rhinoceros、および、グラフィカルアルゴリズムエディタ Grasshopper の学生課題レベルでの技術習得 ・ デジタル3Dモデルの素材活用スキルの習得 ・ 上記技術の設計課題への自主的な応用
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 Rhinoceros の基礎 03 Rhinoceros 建築モデリング演習1 04 Rhinoceros 建築モデリング演習2 05 Rhinoceros での図面出力、パース作成 06 Rhinoceros への地図データインポート 07 Grasshopper の基礎 08 Grasshopper 建築モデルのパラメトリック制御演習1 09 Grasshopper 建築モデルのパラメトリック制御演習2 10 Rhinoceros + Grasshopper での都市解析ビジュアライズ手法 11 Rhinoceros と Adobe Illustrator の連携 12 課題：都市解析のビジュアライズ スタディ1 13 課題：都市解析のビジュアライズ スタディ2 14 課題：都市解析のビジュアライズ スタディ3 15 課題：都市解析のビジュアライズ 最終発表会
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業の提出物可否による絶対評価（70%） ・ 最終提出物のクオリティによる相対評価（30%） 上記の通り、本授業は提出物（主に演習の成果物や課題スタディ結果の報告）を重要とし、全体の評価の7割とするので、注意すること。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り（開始20分以上の遅刻は欠席となります。）
テキスト（教科書）	Web テキストを用いる。詳細は授業時にアナウンスする
参考書・参考資料等	授業時にアナウンスする
用具	大学設備のPCを用いるが自身のPCを用意しても良い
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2学年 前期 「建築・環境デザイン演習Ⅱ」を同時履修する（あるいは、履修済である）と習得知識・技術に相乗効果が見込めるので推奨する ・ コンピューターに「詳しい者」はもちろんではあるが、「詳しくない者」にこそ是非受講していただきたい。丁寧な指導を心がけるので「デジタル」に怖がらないこと。 ・ 授業計画については進行状況や他の授業との連携によっては適宜変更するので授業中のアナウンスを注意すること
実務経験を活かし た授業	

科目名	都市計画
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	都市計画とは、都市の総合的将来像を提示し、その実現に向けて住民の都市活動を誘導する手法である。そのためには、建築の単体規定および集団規定を学び、その上で経済学、社会学、行政学、文化財学、農林学など多くの素養を必要とする。こうした日本の都市計画の流れと、新たな制度、事例を合わせて今後必要となる技術を紹介する。
達成目標	都市計画制度の概要が説明できる 都市計画における専門技術を理解する 現代日本の都市計画の課題を理解する
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	<p>01 都市計画理論の変遷 近代都市計画の先人である、エベネザー・ハワード、ル・コルビジエ、パトリック・ゲテス、ケヴィン・リンチ、クリストファー・アレキザンダーの都市論を学ぶ。</p> <p>02 建築の観点から見た都市計画法と都市計画事業 日本における都市計画法の変遷。都市計画法と建築基準法の関係。ゾーニングと集団規定。市街化調整区域と線引き、非線引き。用途地域と建蔽率、容積率。接道義務と二項道路。区画整理事業と都市再開発事業。</p> <p>03 国土計画と市町村合併 全国総合開発計画から4全総、5全総までを概括する。</p> <p>04 都市計画と市民参加 日本のまちづくり NP0 の変遷。欧米のまちづくり NP0 の変遷。日本の都市計画法の中で の市民参加の規定について</p> <p>05 人口予測と土地利用計画 人口予測手法としての線形回帰法とコーホートモデルを学び、長岡の人口推計を行う。これに基づき土地利用計画の立て方を学ぶ</p> <p>06 整開保と都市計画マスタープラン 都市計画の総括的考え方である「整備・開発・保全の方針」と「市町村マスタープラン」について学ぶ</p> <p>07 優良田園都市住宅の考え方 市街化調整区域内での特例的田園集地地の開発の考え方を学ぶ</p> <p>08 景観法と事例 景観法と景観法が導入されてきた背景を学ぶ</p> <p>09 デザインサーベイとまちづくり 伝統的建造物群保存地域などを調査するための建築的デザインサーベイの方法論を学ぶ</p> <p>10 まちづくり三法、都市再生特別措置法とまちづくり 中心市街地を活性化させるための所謂「まちづくり三法」の正立、改正の背景を学び、都市再生特措法のメニューを学ぶ</p> <p>11 商業地デザインのテクニック 商業地のデザインテクニックを学ぶ</p> <p>12.3 人口減少期のコンパクトなまちづくりの議論 人口減少期に検討されるべき、建築の減築、コンバージョン、間戻の手法と課題について考える</p> <p>14 費用便益、経済波及効果分析 事業の有効性を測定する費用便益法、経済波及効果の手法を学ぶ</p> <p>15 立地適正化計画 立地適正化計画について学ぶ</p> <p>16 期末試験</p>
成績評価基準	基本的に期末試験の結果100%で成績を決める。 ただし、出席状況、レポート提出状況でも次のように考慮する。1/3以上の欠席、1/3以上のレポート課題未提出の場合は期末試験が100点でも不合格とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時に配付する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	日本の人口が減少に向かう中、地方の都市のあるべき姿と、これまでの方向性に乖離が生まれ、問題が起きている。これを解決するための都市計画的ヒントを理解したい人が受講してください。
実務経験を活かし た授業	

科目名	住宅リフォーム論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	川口とし子
授業の概要及びテーマ	住宅ストックの量的な充足、また環境問題、資源・エネルギー問題が深刻化する中で、既存ストックの適切な維持管理に加え、地震や高齢化等に対応する住まいの性能もより高く求められてきている。そこでますます重要とされる<住宅リフォームのプロセス>について学ぶ。
達成目標	住宅リフォームの流れや建物のライフサイクルコストへの理解を通じ、建築の良質なストックを設計するための基礎知識の習得。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 <I. 住宅リフォームの基礎知識> I-1. 住宅市場の推移 02 I-2. 様々なリフォーム 03 I-3. リフォームの流れ 04 <II. 住宅の性能とリフォーム> II-1. 耐震改修 05 II-2. 省エネルギー 06 II-3. バリアフリーリフォーム、II-4. 防犯について 07 <III. 部位別リフォームとコスト> III-1. 基礎のリフォーム、III-2. 屋根のリフォーム 08 III-3. 外壁のリフォーム、III-4. 内装のリフォーム 09 III-5. 設備のリフォーム 10 <IV. 住宅リフォームとLC> IV-1. 建物のライフサイクルコスト (LC)、IV-2. 小規模リフォーム 11 IV-3. 設備と中規模リフォーム 12 IV-4. 構造と大規模リフォーム 13 <V. 事例によるリフォームプロセス> V-1. 木造 (在来軸組工法) のリフォーム、V-2. 木造 (2×4工法) のリフォーム 14 V-3. 鉄筋コンクリート造のリフォーム 15 V-4. 鉄骨造のリフォーム
成績評価基準	出席率 2/3 以上を前提に、小レポート・発表 (40%)、期末レポート・発表 (60%)
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト (教科書)	『今、中古マンション買ってリフォームが正解』川口とし子著、メディアファクトリー、¥1,188-
参考書・参考資料等	『リフォームの現場から』川口とし子著、日本建築仕上学会 学会誌「FINEX No.115~121」、他
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業への積極的な参加を前提に、建築の良質なストックを設計する将来世代としてのモチベーションを高めること。
実務経験を活かした授業	自?の設計事務所を持っている教員が、住宅リノベーションを指導する。

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	建築計画Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	北 雄介、◎佐藤淳哉
授業の概要及びテーマ	前期「建築計画Ⅰ」で学んだ建築を計画・理解する上でのさまざまな基礎概念を発展させ、居住空間から公共建築といった実際の建築プロジェクト・スケールでの知見を学習します。また、建築がどのように生み出されるのか、背景としてどのような論理が展開されてきたのかを概観し、空間の整理から建築空間の提案につながるコンセプトデザインが生成される流れに触れることで建築プロジェクトを評価する姿勢の基礎、自らの設計に活かせる論理的思考法を身につけていきます。
達成目標	1) 計画的な視点から建築を理解し、評価する力を身につける 2) 建築の評価内容を論理的に説明できる表現力を養う
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	01 インタロダクション：ビルディングタイプについて 02 居住空間① : 世界の住宅 03 居住空間② : 戸建住宅 04 居住空間③ : 集合住宅 05 居住空間④ : さまざまな住宅タイプ 06 課題1 : 「20年後のすまい像」プレゼンテーション 07 建築生産① : デザインプロセス論 08 建築生産② : 企画～設計～施工～その後 09 公共空間① : 美術館・博物館 等 10 公共空間② : 道・広場 11 学校空間① : 幼稚園、小中学校 等 12 学校空間② : 大学 13 執務空間 : オフィス 14 空間の更新 : コンバージョン、リノベーション 15 課題2 : 「実施コンペの分析」プレゼンテーション
成績評価基準	出席回数12回以上を前提とし、課題2回の評価(40%+40%)、受講に対する積極性(20%)を総合して評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	都度、授業に関係する推薦図書を紹介する。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築を見て感じる事が第一です。その感覚を説明する論理的な手段としての様々な手法を授業で学び、自らの建築眼を育てていくことを望みます。
実務経験を活かした授業	さまざまなビルディングタイプ、およびさまざまな設計フェーズ実務に携わった経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	緑地環境設計
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	小川総一郎
授業の概要及びテーマ	緑地環境計画やランドスケープデザインで意図した空間デザインを具体化するため設計することが必要である。本授業では、前期「緑地環境計画」で修得したランドスケープ計画の基礎技術を発展させて、各回の講義で学んだことを課題に反映して最終成果につなげる。一連のデザインプロセスを経て、空間を総合的にデザインすることを体験する。また、設計における過程で考慮すべき事項や空間を構成する諸要素（材料、植栽、水、構造物、設備など）の技術的な知識や取り扱いについての理解を深める。
達成目標	ランドスケープの基礎的な図面を描くことができる。 ランドスケープ設計に必要な材料を適切に使い分けることができる。 特定視点場から正確なスケッチを描くことができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス：最終課題説明 02 樹木設計 03 空間構成感覚 04 現地調査：最終課題のサイト調査 1 05 現地調査：最終課題のサイト調査 2 06 透明水彩：ランドスケープの透視図を描くための基礎的技法 07 透明水彩：演習課題またはキャンパスを題材（集中講義 1） 08 透明水彩による透視図（集中講義 2） 09 透明水彩による透視図（集中講義 3） 10 植栽設計 11 道路設計 12 造成排水設計 13 水辺空間の設計 14 総復習 15 プレゼン
成績評価基準	演習課題ではないのでデザインで評価せず、小課題が最終成果に反映されているかどうかで評価する。 定期的な小課題：未提出の場合減点 最終成果課題 100% 最低出席回数 10 回、遅刻は出席回数に含めません 出席 10 回未満は採点の対象外とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎 理工図書 4,200 円(税別)
参考書・参考資料等	庭木と緑化樹 1,2 飯島亮 誠文堂新光社 住まいの樹木図鑑 住友林業緑化
用具	スケッチブックなど、ガイダンス時に説明します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	前期の「緑地環境計画」を履修していることが望ましい。
実務経験を活かした授業	建設会社及びコンサルタンツで実績のある教員がランドスケープの計画設計施工について講義する。

科目名	建築・環境CG実習Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎高木秀太
授業の概要及びテーマ	建築設計におけるデジタル手法をアドバンスドに学習する。本授業では特に「住宅」設計に特化し、2つの課題を設定する。前半課題はこれまでに自身が取り組んだ住宅設計課題をデジタル手法で「リビルド」することを試みる。後半課題ではさらに拡張し、レーザーカッター、3Dプリンタを用いた、多様な「住宅模型キット」を作成する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3D モデラ Rhinoceros、および、グラフィカルアルゴリズムエディタ Grasshopper の建築設計（課題）へのハイレベルな応用 ・ レーザーカッター、3D プリンタによる建築模型の出力 ・ 上記技術の設計課題への自主的な応用
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 Rhinoceros、Adobe Illustratorからのレーザー/3D出力 03 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ1 04 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ2 05 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ3 06 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ4 07 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ5 08 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする 最終発表 09 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ1 10 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ2 11 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ3 12 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ4 13 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ5 14 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ6 15 課題2：システムチックな住宅キットを開発する 最終発表
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業の提出物可否による絶対評価（70%） ・ 最終提出物のクオリティによる相対評価（30%） 上記の通り、本授業は提出物（主に課題スタディ結果の報告）を重要とし、全体の評価の7割とするので、注意すること
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	Web テキストを用いる。詳細は授業時にアナウンスする
参考書・参考資料等	授業時にアナウンスする
用具	大学設備のPCを用いるが自身のPCを用意しても良い
履修制限等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1学年 後期 「建築・環境デザイン演習Ⅰ」（住宅設計課題）を履修済であることが望ましい ・ 第2学年 前期 「建築・環境CG実習Ⅰ」を履修済であると習得知識・技術に相乗効果が見込めるので推奨する
履修希望者への要望・事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピューターに「詳しい者」はもちろんではあるが、「詳しくない者」にこそ是非受講していただきたい。丁寧な指導を心がけるので「デジタル」に怖がらないこと。 ・ 授業計画については進行状況や他の授業との連携によっては適宜変更するので授業中のアナウンスを注意すること
実務経験を活かし た授業	

科目名	構造力学Ⅱ
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	中村孝也
授業の概要及びテーマ	実際に建設される建物は柱と梁で構成された構造物です。構造物に外力が作用したときの構造物の応力や変形性状を正しく知ることは大変重要です。構造力学Ⅱでは、構造力学Ⅰで学んだ力学的知識に続きより実設計をする上で必要とされる事について解説します。 フレームの力学的性状を理解することは、数値を算出することではありません。建物は、ねじれたり、座屈をしたり複雑に変形します。力の流れがイメージできるとより合理的な建築計画が可能になります。
達成目標	地震、風、積雪等の外力が構造物に作用したときの構造物（フレーム）に生じる力が理解できることを目標とする。また、建築設計実務で行われる許応力度計算や保有水平耐力計算等の実務で使われる手法の概要を理解し、構造設計上の必要知識を習得する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業。
授業計画	01 概要：授業の概要 02 部材応力：構造力学Ⅰの復習1（応力の種類） 03 応力計算：構造力学Ⅰの復習2（梁・架構の応力計算） 04 剛性率・偏心率：剛性率・偏心率の解説 05 木造軸組計算1：木造軸組の壁量計算法の解説 06 木造軸組計算2：1/4法、N値法の解説 07 座屈：柱・板・構造体の座屈の解説 08 一貫計算と構造図：一貫計算プログラムによる計算書の見方と構造図の見方・描き方 09 見学会：工事現場見学または建物見学 10 保有水平耐力：保有水平耐力の概要 11 保有耐力計算法：節点振り分け法・仮想仕事法 12 振動1：建物振動の基礎の解説 13 振動2：地震動・振動解析の解説（環境振動・交通振動に対する補足） 14 演習：構造力学Ⅰ・Ⅱを通しての演習 15 まとめ
成績評価基準	成績評価は、期末試験（75%）、小テスト（10%）と積極性（15%）等を含めて総合的に行う。 期末試験は出席が2/3以上の者に受験資格を与える。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	適宜指示する。
参考書・参考資料等	『建築骨組の力学 応用編』田中 尚・高梨晃一・宇田川邦明共著、東洋書店 『YOUR PRIVATE SKY』R. BUCKMINSTER FULLER LARS MULLER PUBLISHERS 『最高に楽しい建築構造入門』江尻 憲泰著、エックスナレッジ 『建築構造力学1』和泉正哲、培風館 『建築構造力学2』和泉正哲、培風館
用具	電卓
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築設計は、構造に関する様々な知識が必要となります。構造計算以外の構造に関する知識も重要です。そのための一歩として、実際の様々な建物を見て、構造力学Ⅰや構造力学Ⅱで身につけた知識を参考に、構造に関して考えるとより構造に対する知識が深まります。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築設備
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	飯野秋成
授業の概要及びテーマ	建築物を有効にそして快適に使い続けていく上で、建築設備は欠かすことができません。長い歴史の中で人々が培ってきた建築設備技術をひも解けば、無味乾燥に思える機械室設備群の価値が理解され、設備設計の緻密さにロマンをも感じるのではないのでしょうか。 この授業では、空調設備、給排水衛生設備、電気設備の設計方法を学びます。特に、建物用途ごとの考え方の違いにフォーカスしています。この講義で得られる知識は、学生個々のオリジナルの建築物の設計にも大いに役立ててもらえるのでは、と思っています。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備設計の対象となる建築物に対して、空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消防・防災設備の設備設計の考え方を記述できる。 ・ 設備設計の対象となる建築物に対して、適切な設備を選択し、また基本的な設備図面を描くことができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス：建築設備と建築計画との密接な関わり 02 オフィスビルの設備設計（1） 03 オフィスビルの設備設計（2） 04 オフィスビルの設備設計（3） 05 「演習 A」と解説 06 機械設備図面の描き方の基礎 07 電気設備図面の描き方の基礎 08 冷凍機のしくみ 09 送風量、送水量等の計算方法 10 「演習 B」と解説 11 学校等の設備設計 12 図書館・博物館等の設備設計 13 宿泊施設等の設備設計 14 消防・防災・バリアフリー設備 15 「演習 C」と解説
成績評価基準	演習 A での各得点（20+30+50）の合計で評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	図とキーワードで学ぶ建築設備 学芸出版社 2800 円
参考書・参考資料等	「新潟工科大学環境設備・芸術工学研究室」の Web に、予習、復習用動画があります。予習、復習に適宜視聴してください。http://www.niit.ac.jp/abehtml/iinolab/
用具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定テキスト ・ 筆記用具 ※定規、および加減乗除用の電卓を用いることがあります。必要なときに指示します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	演習 A～C に出題する問題は、授業中に説明した内容、およびテキストに明示されている内容に基づいています。単位修得を目指す学生は、毎回の講義にしっかり向き合ってください。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	建築設計
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	山下秀之
授業の概要及び テーマ	本講義では、同時期開講の設計演習と密にリンクしながら進めるものである。事例を具体的にとりあげ、設計方法を解説し、履修者の設計演習に即時応用してもらおう。構造・設備・施工についても解説する。
達成目標	設計要件を建築物として成立させるべく、計画・法規・構造・設備・材料・納まり・施工方法を図面化できるようになること。それらを皆さんの設計演習で応用できるようになること。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 インテリアの設計と建設 02 RC 造の設計と建設 (1) 03 木造の設計と建設 (1) 04 RC 造の設計と建設 (2) 05 木造の設計と建設 (2) 06 鉄骨造の設計と建設 (1) 07 3種の専門図(詳細図・構造図・設備図)の設計 08 鉄骨造の設計と建設 (2) 09 設計競技の建築について 10 里山環境の建築の設計 (1) 11 里山環境の建築の設計 (2) 12 幾何学的思考・ダイアグラム・システム・プログラム (1) 13 高層建築の設計 14 幾何学的思考・ダイアグラム・システム・プログラム (2) 15 複合用途の建築
成績評価基準	期末レポート100% (ただし、出席回数12回以上が条件で、欠席日数に準じる減点あり)
出席・遅刻の基準	授業開始5分以内を出席、それ以降を欠席と扱う。出欠に関して1回でも不正が明らかになった場合は、評価を不合格とする。
テキスト(教科書)	オリジナルのプリントを毎回配付
参考書・参考資料等	特になし
用具	特になし
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	建築の設計は、以下の「力」を必要とする。複雑な設計条件の読解力、平面計画の推敲力、空間や立体の造形力、日々進化する技術や素材への工学力、建築基準法など法規への適応力、CAD/CGのパソコン力、美しい模型の製作力、手による描写表現力、設計説明書の文章力、パワーポイントによるプレゼン力、面積や工事費計算のエクセル力、建設現場における指示力、近未来を見すえた判断力。以上、大変な労苦を伴うものだが、建築に熱意を持つみなさんの初期衝動が持続し、身を結ぶことを望む。
実務経験を活かし た授業	海外留学(独シュテューデルシューレ)、組織設計事務所(日建設計)、海外有名建築家事務所(リチャード・ロジャース・パートナーシップ)、建設共同企業体(東京国際フォーラム建設工事)、そして、独立した建築家として、設計実務を積み重ねた、リアルな設計技術とデザイン力を教える授業。

科目名	エコロジカルプランニング
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎小川総一郎、鈴木誠治
授業の概要及びテーマ	地域生態系を踏まえて地域環境のあるべき姿について学びます。地形と生物相との関係、生態系の基礎知識、流域単位での水循環、生態系復元について学習します。最後に、ビオトープ・ハビタット計画のプレゼンを行います。
達成目標	エコロジカル・プランニングの基礎としての地域の植生や生態系を理解し、自分なりのエコロジカルな視点に立った計画アプローチができるようになることを目指す。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	<p>〈第1ステップ：エコロジカル・プランニングの概要と基礎〉</p> <p>01 エコロジカル・ランドスケープの世界</p> <p>02 地形の読み方と生物相の関係</p> <p>03 生態系に関する基礎知識</p> <p>04 地域の自然(生態系)に関する知識</p> <p>05 里山の生態系の特性と保全</p> <p>〈第2ステップ：地域の自然を知ろう〉</p> <p>06 ハビタット計画</p> <p>07 場とハビタット設定</p> <p>〈第3ステップ：生物生息環境とエコロジカル・プランニング〉</p> <p>08 エコロジカル・プランニングのプロセス</p> <p>09 各種生物の生息環境と生態系</p> <p>10 ビオトープと生態系復元の技術</p> <p>11 目標種の考え方と生態系</p> <p>〈第4ステップ：エコロジカル・ランドスケープの演習〉</p> <p>12 ビオトープ・ハビタット計画：ゾーニング</p> <p>13 ビオトープ・ハビタット計画：プレゼン</p> <p>14 現地調査(土曜日1時限目)</p> <p>15 現地調査(土曜日2時限目)</p>
成績評価基準	試験は行わない。与えられた課題について作品を提出してもらう。提出された作品にて評価する。 最低出席回数10回、遅刻は出席回数に含めません。 出席10回未満は採点の対象外とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎 理工図書 4,200円(税別)
参考書・参考資料等	養父志乃夫著 ビオトープ再生技術入門 農文協
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	課題に対して意欲的に取り組みができる人を期待する。2年前期の緑地環境計画、後期の緑地環境設計を受講し単位修得していることが望ましい。
実務経験を活かした授業	建設会社及びコンサルタントで実績のある教員がランドスケープの計画設計施工について講義する。

科目名	建築法規
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎佐藤淳哉、川合宏明
授業の概要及びテーマ	建築物の敷地、構造、設備及び用途等に関する基本的な関係法令について、その体系と建築物の設計及び監理等に必要規定を法手続きの視点から学習します。 授業では、法文の読み方を知ってもらいながら、建築関係法令の概要について、条文の意図とすること及び規定がどのような場合に適用されるのかを示しながら解説します。
達成目標	二級建築士試験の学科合格程度の法規知識を修得する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	01 建築物と法規について：法規による制限の目的と捉え方 建築基準法について、用語の定義 02 面積と高さ、建築物の設計と手続き 03 道路と敷地、壁面線、用途制限 04 容積率、建ぺい率、高さ制限 05 日影規制、防火・準防火地域 06 建築基準関係規定、建築関連法 07 モデルプランによる法チェック 08 建築物の構造耐力に関する法 09 建築物の防火に関する法 10 室内環境・建築設備に関する法 11 建築物の避難に関する法 12 単体規定のまとめ 13 建築士法、建築士試験について：概要・建築基準法との関係 二級建築士学科法規の問題 14 平成 31 年二級建築士学科試験法規について 15 平成 31 年二級建築士製図試験について *達成 目標に支障のない範囲で授業計画を変更することがある。
成績評価基準	授業の受講態度と意欲 20%、毎回の授業の最後に行う設問の答案結果 80%により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	「超入門 建築法規」 イラスト解説による(改訂版) 市ヶ谷出版社(初回から使用、事前に購入して下さい) 建築基準法関係法令集 2019 年版 建築資料研究社(無償配布の可能性あります)
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	出席を最重視します。 建築法規は、建築物に要求されている最低限の基本性能と建築物の街づくりのルールを定めたものであることを理解し、その概要を修得して欲しい。また、建築士を目指す方は、本講義の単位が建築士受験に必要な履修科目となっていることを熟知し、講義に臨んで下さい。
実務経験を活かした授業	建築確認申請等の申請代理人経験をもつ教員、および確認審査経験をもつ教員が法令内容とその実際についての講義を行う。

科目名	建築施工
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	五十嵐賢次
授業の概要及びテーマ	本講義は、建築生産、施工管理、仮設工事、土工事、各種工事（鉄筋コンクリート造・鉄骨造）、仕上げ・設備工事を学習する。講義の進行に合わせて、演習課題（1・2級建築士試験程度）を出題する。この課題は学生が自ら解くことによって理解を深めてもらうものであり、次回の授業では解説を行う。また途中に現場見学を実施して、施工の実態を学習する。
達成目標	建築生産の流れと建設業の概要を説明することができる。建築工事の内容、鉄筋コンクリート工事の流れ、鉄骨工事の流れを理解し、図、言葉による説明ができるようになることで、施工管理の基礎を学ぶ。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 建築生産（設計と施工） 生産のしくみについて 02 施工者を選定し、工事契約を結ぶ 施工者の選定及び請負契約について 03 工事に着手する（着工） 着工前の仕事について 04 仮設工事・準備工事 共通仮設及び直接仮設 05 土工事・地業工事 根切り・山留めの種類と特徴について 06 基礎工事 基礎形式・杭・地盤改良の特徴について 07 鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事1） 鉄筋の加工について 08 鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事2） 鉄筋の組立てについて 09 鉄筋コンクリート工事（型枠工事） 型枠の役割について 10 鉄筋コンクリート工事（コンクリート工事） コンクリートの品質管理と打設について 11 鉄骨工事1 鉄骨の工場での製作について 12 鉄骨工事2・建築積算 鉄骨の現場での建て方・積算について 13 仕上工事 各種仕上工事の施工方法や検査方法について 14 現場見学1 実際の現場で施工の様子を見学 15 現場見学2 実際の現場で施工の様子を見学 16 定期試験
成績評価基準	毎回の授業の最後に行う演習課題（30%）と定期試験（70%）により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	『初学者の建築講座 建築施工（第三版）』中澤他著、市ヶ谷出版社 その他、必要に応じてプリントを配付
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本科目は、基礎知識とともに施工の実際を知ることが重要である。とりわけ各種工事については経験のない人には理解し難い点も多いのでスライドで紹介し講義を進めていく。施工技術の知識は多岐にわたりまた雑多であるし、建築に向けた各自の志向も様々であろうと思われるので、各自の受講目的を設定して主体的に学んでください。
実務経験を活かした授業	建設会社で一級建築士として実務経験のある教員が、建築施工について講義する。

科目名	コミュニティデザイン
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	福本 壘
授業の概要及びテーマ	地域社会が抱える問題に対して住民が自分たちで解決策を考え、乗り越えていくための「人と人がつながる」場やしくみづくりについて学び、議論をし、理解を深めます。人口減少、高齢化、都市縮退、自然災害、環境問題を背景にコミュニティデザインの全体像を学び、地域の問題を捉えた解決策の提案を行えることを目標にします。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティデザインの全体像を理解していること ・ 自身が関わるコミュニティについて他者に紹介できること ・ 他者から体験談や考えを引き出すコミュニケーションを行えること ・ 地域の問題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービス等の提案書をコミュニティデザインの手法に基づき作成していること
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 導入：授業の取り組みのイメージを確認 02 防災について楽しく話し合う場づくり：課題演習のイメージを確認 03 コミュニティの定義と構造：自身のコミュニティから人と人がつながる理由を考える 04 コミュニティの歴史と制度：日本におけるコミュニティの成り立ちを学ぶ 05 ソーシャルキャピタル：人と人のつながりが生み出すものは何かを考える 06 コミュニティと空間：地域資源を活かした計画を学ぶ 07 コミュニティデザインのプロセス①：デザインステージ、ステークホルダー、キーアクション 08 コミュニティデザインのプロセス②：協働のデザイン（課題発見の方法と体制づくり） 09 コミュニティデザインのプロセス③：参加のデザイン（場づくり、対話、記録の方法） 10 コミュニティデザインのプロセス④：発信のデザイン（整理、発信、課題達成の方法） 11 コミュニティデザインのプロセス⑤：持続性のデザイン（マーケティング、ファンドレイジング） 12 コミュニティデザインツールの開発方法 13 課題演習①：地域の問題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービスの提案 14 課題演習②：地域の問題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービスの提案 15 まとめ
成績評価基準	学習内容を定着させる簡単な課題：30% 積極的な姿勢：20% 課題演習に対する提案：50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り（開始 20 分以上の遅刻は欠席となります。） 出席している場合でも WEB アンケート未実施の場合で連絡が無い場合は欠席扱いとします。
テキスト（教科書）	特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。 授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意した WEB サービスを利用します。
参考書・参考資料等	【オープンアクセス資料】 (1) Mikiko Ishikawa (2015) 「A Study on Community-Based Reconstruction from Great East Japan Earthquake Disaster - A Case Study of Iwanuma City in Miyagi-Pref」, 『Journal of Disaster Research』 Vol.10, No.5. (2) 福本 壘・中村 和彦・山口 紀生 (2018) 「防災を主題にした対話を通じた学習者の主体性の変化と学びの深まりー防災トランプを活用した事例を通じてー」, 『環境教育』, Vol.27 (3), 15-22. (3) 福本 壘 (2018) 「対話による地域防災訓練の試行-横浜市港南区・戸塚区における防災トランプの活用事例を通じて-」, 『自治体危機管理研究』, Vol. 21 (1), 69-88. (4) 福本 壘・中村 和彦 (2019) 「対話型学習教材「防災トランプ」を用いた 中学校における防災授業の実施とその評価」, 『安全教育学研究』, 印刷中. 【参考書（要購入）】 (5) 山崎 亮 (2011) 『コミュニティデザインー人とつながるしくみをつくる』 学芸出版社. (6) 山崎 亮 (2012) 『コミュニティデザインの時代』 中央公論新社. (7) 小泉 秀樹 (2016) 『コミュニティデザイン学：その仕組みづくりから考える』 東京大学出版会.
用具	授業中に WEB アンケートを実施することがあるので、インターネットにアクセスできる PC またはスマートフォンを持参してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本講義は「地域の問題を解決するための提案」をコミュニティデザインの手法でまとめることを目標に学びを深めていきます。 履修後の成果は、みなさんのポートフォリオの1ページを飾り、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。
実務経験を活かした授業	地域が抱える問題を解決するためのコミュニティデザインに従事した経験のある教員が、その経験を活かして、コミュニティの考え方やデザインプロセスを講義する。

科目名	建築・インテリア演習 I (建)
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山下秀之、佐藤淳哉、小川総一郎、江尻憲泰、大淵政明、柏原信幸、高田清之助
授業の概要及びテーマ	<p>建築デザインとランドスケープデザインが直面する諸問題を考えながら、その解決策を実践的に学ぶ。専門領域を横断するデザイン力を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題 A ポートフォリオの制作 (建築グループとランドスケープグループ共に、第1 課題) ・ 課題 B キッズ・ミュージアム (建築グループの第2 課題、ランドスケープグループの第3 課題) ・ 課題 C エコ・ウィレッジ (ランドスケープグループの第2 課題、建築グループの第3 課題) ・ 課題 D ポートフォリオの制作2 (建築グループとランドスケープグループ共に、第4 課題) <p>課題 A と課題 D では、就職活動に不可欠であるポートフォリオ (作品集) を作成し、それを持って面接のシミュレーションをするものである。どの種のポートフォリオが目を留め、どのような面接が好印象となるのかを体得する。</p> <p>課題 B と課題 C の演習は、建築グループとランドスケープグループとの「たすきがけ」で実施される。たすきがけとは、上記でわかるとおり、一方のグループが終えた課題の成果物に重ねて、他方のグループが課題を継続させる仕組みである。その目的は、実際の実務では欠かせない設計作業のチームワークを仮体験してもらうことにある。</p>
達成目標	「都市と緑地」「開発と修景」、こうした2 項対立の基軸のなかで、学生一人ひとりがエコロジー時代の問題意識を育み、それを解決する建築・環境設計のプロポーザルをまとめあげる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	<p>〈建築グループ〉</p> <p>01~02 課題 A の説明、専門講義、講評会</p> <p>03~08 課題 B の専門講義、敷地選定プレゼン、ブロックプランニング、平面・空間構成の検討、意匠・構造・設備計画、一般図&パースとプレゼン模型&専門図の提出、講評会</p> <p>09~14 課題 C の専門講義、現地調査報告および配置計画、ブロックプランニング、一般図&パースとプレゼン模型&専門図の提出、講評会</p> <p>15 課題 D の提出、総括</p> <p>〈ランドスケープグループ〉</p> <p>01~02 課題 A の説明、専門講義、講評会</p> <p>03~08 課題 C の専門講義、計画地の現地調査・分析、コンセプトメイク、空間構成の検討、平面・断面計画、流水設備ほか設備計画、植栽計画、パースとプレゼン模型制作、講評会</p> <p>09~14 課題 B の専門講義、建築計画の理解と現地調査、コンセプトメイク及び計画範囲の設定、動線計画と空間構成、平面・断面計画、設備計画、植栽計画、パースとプレゼン模型制作、講評会</p> <p>15 課題 D の提出、総括</p>
成績評価基準	講評会での提出物の内容が、成績点数 (建築グループは5 名の教員の採点平均) となる。未提出作品は、期末の後出し提出日に、提出条件を満たしていれば、60 点として採点される。一作品でも未提出のままの場合、履修は不合格となる。作品提出では、遅れた時間に依じた減点、もしくはは受け取り拒否がなされる。
出席・遅刻の基準	初回授業で、担当教員より説明する。
テキスト (教科書)	課題文に資料を配付し説明する場合がある以外、履修者各自により参考図書などを採し、自習すること。
参考書・参考資料等	特になし
用具	設計とプレゼンに必要な用具と材料
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この設計演習を終えれば、社会に出て設計の仕事に就いてもやっていける、という皆さんになっていることを望む。また、建築の設計を職にしようとする者に対しては、同時開講の「建築設計 (3 年前期)」を履修することを強く望む。
実務経験を活かし た授業	すべての指導教員は、豊富な社会実務実績に基づき、履修者をしっかりと指導する。

科目名	建築・インテリア演習 I (イ)
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎森 望、川口とし子
授業の概要及びテーマ	21 世紀の社会にあわせたデザイン性豊かなインテリア空間の創造を求める。インテリアデザインとはなにか？デザイン手法・空間設計とはなんなのか？デザインとは？美学とは？構成手法とは？プレゼンテーションとは？を中心に授業を進める。
達成目標	課題によりインテリアデザインの設計手法を学び、プレゼンテーションテクニックや現代的なデザイン手法の構築ができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01～03 課題Ⅰ (売店) 04～09 課題Ⅱ (イベント) 10～15 課題Ⅲ (商業施設)
成績評価基準	課題Ⅰ 20%、課題Ⅱ 40%、課題Ⅲ 40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業への積極的な参加を前提に、建築、室内、家具・什器などを総合的にとらえ、自由な発想・アイデアを形にし、高度なデザイン手法を学んでほしい。
実務経験を活かした授業	自身の設計事務所を持っている教員が、リノベーションや店舗設計を指導する(川口)。ディスプレイデザイン事務所に勤務していた教員が、イベント空間のデザインを指導する(森)。

科目名	建築・インテリア演習Ⅱ（建）
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山下秀之、小川総一郎、佐藤淳哉、白鳥洋子、北雄介
授業の概要及びテーマ	<p>本演習では、履修する学生の専門志向に基づいて、以下3つの設計演習に分かれる。最終的な目標は、各自の設計技術と専門的知見を高度に獲得することである。グループワークによってもたらされる良い影響や多くの気づきも演習の成果となる。</p> <p>■建築デザイン：山下担当 履修者は、以下、2つのプログラムのどちらかを選択する。2つのグループワークを同時に行うが、履修者の人数によっては、グループ数を調整する。</p> <p>PROGRAM-A：平行植物園 ・伊の絵本作家レオ・レオーニの「平行植物」を題材とする。 ・英エデンプロジェクトが建設された採掘場跡地を敷地とする。 ・そのエリアでの奇想天外で壮大な「平行植物園」を設計提案する。</p> <p>PROGRAM-B：蓮濁計画 ・蓮濁の交差点の1角（セコム、メガネのパリミキ、セブン-イレブンの場所）に複合ビルを 構想、設計する。 ・地上7階建てまで、延べ面積 6000 m²~7000 m²。 ・建築基準法の基本的な遵守、部分詳細図、建具表、仕上表、面積表にいたるまで、実施設計に関連するおおよその事柄をフォローする。</p> <p>■エコロジカルランドスケープデザイン：小川（総）担当 ・信濃川河川敷を研究対象地とする。 ・そのエリアの生態系を調査研究する。 ・そのエリアでの生物の「楽園」を目的とするランドスケープデザインを設計提案する。</p> <p>■地域と建築デザイン：佐藤担当 ・長岡市内の一地区を設計対象とする。 ・川に着目し、調査分析を行い、その考察から建築のプログラムを考案する。 ・これに基づいて建築設計を行い、地域に対する建築を提案をする。</p> <p>■地域と建築デザイン：北担当 ・地区を限定しない。 ・今までにない建築用途を模索する。 ・これに基づいて具体的な建築設計を行ってみる。</p> <p>■地域と建築デザイン：白鳥担当 ・寺泊地区を設計対象とする。 ・地域復興の観点から調査分析を行い、その考察から建築のプログラムを考案する。 ・これらに基づいて建築設計を行い、地域に対する建築を提案する。</p>
達成目標	各領域の諸問題を正確に分析し、課題を見いだす能力を身につけること。その上で計画の立案、設計の方法、実施の方策に関して学生が自らの方法論を構築する端緒を見つけ出すこと。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業 （各担当教員による）
授業計画	01 課題説明（全員一同）、各グループ分け、各グループによるキックオフ 02～06 各グループによる演習作業 07 中間発表（全員一同） 08～14 各グループによる演習作業 15 最終講評（全員一同）
成績評価基準	各グループ別の採点（基本的には、全提出物の出来や演習取り組み度による総点）
出席・遅刻の基準	各担当教員による。
テキスト（教科書）	各担当教員による。
参考書・参考資料等	各担当教員による。
用具	各担当教員による。
履修制限等	演習担当教員と卒研ゼミ教員は、基本的に一致すること
履修希望者への要望・事前準備	今までの演習において獲得した考え方や技術に磨きをかけるべく、集中してほしい。 共同作業では、仲間の意見を聞き入れる柔軟性を持ち、より高いレベルに到達してほしい。
実務経験を活かした授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	建築・インテリア演習Ⅱ（イ）
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎森 望、川口とし子
授業の概要及び テーマ	店舗のリノベーションについての知識を得たうえで、実際に存在する店舗のリノベーション提案を行う。また空間を使った情報伝達媒体としてのディスプレイデザインの課題を通し、ディスプレイデザインの考え方を学ぶ。
達成目標	各領域の諸問題を正確に分析し、課題を見いだす能力を身につけること。その上で計画の立案、設計の方法、実施の方策に関して学生が自らの方法論を構築する端緒を見つけ出すこと。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01～07 課題Ⅰ（住宅リノベーション） 08～15 課題Ⅱ（文化施設）
成績評価基準	課題Ⅰ50%、課題Ⅱ50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	アイデアを形にする力をつけ、なぜその形にしたのかを第三者に伝える手法を身につけてもらいたい。そのために企画する能力や考え方を学んでほしい。
実務経験を活かし た授業	自身の設計事務所を持っている教員が、住宅リノベーションや店舗設計を指導する（川口）。ディスプレイデザイン事務所に勤務していた教員が、文化施設のデザインを指導する（森）。

科目名	環境計画・保存演習 I
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎渡辺誠介、津村泰範、平山育男、福本 壘、梅嶋 修、大滝 聡、西澤哉子
授業の概要及びテーマ	現代日本は、空間的縮退（空家・空ビル増加、限界集落の増加）に対応するために、文化や社会の持続性を基軸とした空間再編・活性化をプロデュースもしくはデザインする人材が求められる。そして同様に文化財としての価値を有する空間（建造物、町並みなど）を保存・活用する人材も求められている。 本授業では、こうした問題意識の下に建築・デザインの技術をベースに柔軟な発想で創造的な設計や計画を構築する。演習課題は、都市計画・まちづくり系と文化財保存系に分かれて実施する。最初に合同のガイダンスと見学を行い、後にどちらかの課題を選択する。第2課題は合同の空間で都市計画的課題と文化財保存的課題と混合させて行う。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の空間的特性を調査・分析することができる ・ 分析に基づいた課題に対して課題解決に向けた設計および計画の提案ができる
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う
授業計画	01 合同ガイダンス 02～03 合同見学（新潟市方面：文化財およびまちづくり事例） 04～10 第1課題 都市計画・まちづくり系： 撰田屋地区まちづくり計画の変遷学習とまちづくり会社運営計画作成 文化財保存系：歴史模型製作、他 11～15 第2課題（合同） 中島浄水場および周辺地区の文化財保存活用と都市計画策定
成績評価基準	基本的に成果物の評価 100%で成績を決める。 ただし、演習出席状況（調査参加を含む）、エスキース取り組み姿勢でも次のように考慮する。1/3 以上の欠席、エスキース取り組みが指導教員にない場合に対しては成果物が 100 点でも不合格とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜配付する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建物、町の歴史と未来に常に好奇心を持ってください。 文化財課題では見学が特に多いので、土曜日の予定は空けておいてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	環境計画・保存演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎渡辺誠介、津村泰範、平山育男、福本 壘、大滝 聡、後藤 治、西澤哉子
授業の概要及びテーマ	現代日本は、空間的縮退（空家・空ビル増加、限界集落の増加）に対応するために、文化や社会の持続性を基軸とした空間再編・活性化をプロデュースもしくはデザインする人材が求められる。そして同様に文化財としての価値を有する空間（建造物、町並みなど）を保存・活用する人材も求められている。 本授業では、こうした問題意識の下に建築・デザインの技術をベースに柔軟な発想で創造的な設計や計画を構築する。演習課題は、都市計画・まちづくり系と文化財保存系に分かれて実施する。最初に合同のガイダンスと、ポートフォリオ発表課題、そして見学を行う。その後どちらかの課題を選択する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の空間的特性を調査・分析することができる ・ 分析に基づいた課題に対して課題解決に向けた設計および計画の提案ができる ・ 領域横断的な視点と専門的視点から課題解決に対しての提案ができる
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02～03 第1課題：ポートフォリオ制作&発表 04～06 合同見学：近代化遺産、地方中小都市中心市街地、中山間地集落 07～11 第2課題 都市計画・まちづくり系：長岡市の立地適性化計画の学習 文化財保存系：近代化遺産の保存整備 12～15 第3課題 都市計画・まちづくり系：山古志地区中山間地集落計画 文化財保存系：近世城下町の保存整備
成績評価基準	基本的に成果物の評価 100%で成績を決める。 ただし、演習出席状況（調査参加を含む）、エスキース取り組み姿勢でも次のように考慮する。1/3 以上の欠席、エスキース取り組みが指導教員にない場合に対しては成果物が 100 点でも不合格とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜配付する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建物、町の歴史と未来に常に好奇心を持ってください。 文化財課題では見学が特に多いので、土曜日の予定は空けておいてください。
実務経験を活かした授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	ゼミ I 〈建築・環境デザイン学科〉
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎小川総一郎、川口とし子、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	1： 教員あるいは複数教員のゼミが、それぞれ、ゼミ課題を掲げる。 2： 各学生は、取り組む課題をひとつ、もしくは複数選択し、そのゼミ（複数OK）に所属する。 3： ゼミ課題に対する提案・調査・研究など、教員との話し合いなどにより、ゼミが運営される。
達成目標	3年生として専門性を高めつつ、多角的な視野を持って問題を解決する能力を養う。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	造形力を養う授業
授業計画	各ゼミによる。
成績評価基準	同上
出席・遅刻の基準	同上
テキスト（教科書）	同上
参考書・参考資料等	同上
用具	同上
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築・環境デザイン学科が取り扱うプログラムは多岐にわたり、しかも相互依存が強い。よって、このゼミにより、分野の専門性を高めるのみならず、他分野への興味と理解を高めることができる。前期ガイダンスの際にプログラムと場所を発表する。初回の授業では、所属を希望するプログラムの場所（各ゼミによる）に集合のこと。初回後に所属ゼミの変更を希望する場合には、ゼミ担当の教員に相談すること。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	ゼミⅡ〈建築・環境デザイン学科〉
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎小川総一郎、川口とし子、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	ブレ卒研と位置づける。4年次に配属される予定の教員との話し合いにより、研究内容が決定され、調査・分析・企画提案・設計などをしていく。
達成目標	教員から指示されたことだけをやるのではなく、自ら問題点を洗い出し、課題を立ち上げ、解決策を提案する能力を養う。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	各ゼミによる。
成績評価基準	同上
出席・遅刻の基準	同上
テキスト(教科書)	同上
参考書・参考資料等	同上
用具	同上
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各分野の専門性をさらに高めるためのゼミなので、3年前期までの座学や演習の内容は、落ちこぼすことなくマスターしておくべきである。ゼミの事前準備は、4年次に配属される予定の研究室の教員の指示を仰ぐこと。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	卒業研究 I 〈建築・環境デザイン学科〉
学年	4
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	◎小川総一郎、川口とし子、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	個人または共同で、特別のテーマに基づいた「研究論文」「制作」または「論文および制作」を行います。その内容と規模は、これまでの学習の集大成となるものです。研究テーマは、これまで学んだ各分野の専門科目や演習に基づき、自分にとって最も興味のある課題や題材について、担当教員とゼミを通して煮詰めて行きます。
達成目標	以下の内容を目標にしてください。 1) 研究テーマを検討し、卒業研究の実施計画を立てる。 2) 7月(12月)に研究室ごとに発表会を行うので、下記、授業計画の内容をプレゼンできるようにする。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	担当教員との話し合いにより、ゼミ形式で適宜行います。例えば、研究主題に関連した資料収集、現況調査、事例研究、研究計画書、コンテンツ検討、基本設計の草案、部分的文章、実験データ、設計や論文の概要や構成など、研究の蓄積など。
成績評価基準	研究の態度、プロセス、発表内容、レジュメなどを総合して、各担当教員が判断します。例えば、出席状況、ディスカッションや調査見学、各種準備などの積極的な参加など。これら各項目の割合は、適宜、各担当教員が良識に基づいて決定します。
出席・遅刻の基準	担当教員の判断によります。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	卒業研究Ⅱ〈建築・環境デザイン学科〉
学年	4
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	◎小川総一郎、川口とし子、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	まず、「卒業研究Ⅰ」の内容を、9月（4月）に予定する中間発表でプレゼンテーションしてもらいます。以後、研究を具体化し、2月（8月）に予定する卒研発表会で、最終成果物をプレゼンテーションしてもらいます。
達成目標	以下の内容を目標にしてください。 1) 履修した各分野の専門家としての技術を習得し、独自のすばらしい提案ができる。 2) 建築・環境デザイン学科生として、社会に貢献できる萌芽を見いだせること。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	担当教員との話し合いにより、ゼミ形式で適宜行います。
成績評価基準	中間発表と最終発表で提示された内容を総合して、各担当教員が判断します。また、研究態度やプロセスも加味される場合もあります。
出席・遅刻の基準	担当教員の判断によります。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	本科目は卒業研究Ⅰの単位を修得していなければ履修できません。
履修希望者への要望・事前準備	担当教員の判断によります。研究によって、大学を卒業する者としてふさわしい強いハート、厳しいマナー、そして仕事を仕上げる楽しさと喜びを学び得てほしい。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う